

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和6年度学校評価 計画

学校名		佐賀市立中川副小学校
1 前年度 評価結果の概要	・学年によって学力差があるので、授業中一人一台端末を積極的に利用し、児童が「主体的・対話的」に取り組める授業改善を行う必要がある。 ・博愛の里ならではの交流活動やボランティアガイド、VS活動（ボランタリーサービス）を通して、博愛の精神を学ぶことができた。 ・学校は楽しいと感じる児童の割合が高くなったが、その反面、勉強はあまり楽しくないと感じる児童がいることから、何が原因かを究明し、学習内容を理解させることで進んで勉強に向かう児童の割合を増やす必要がある。 ・働き方改革については、全職員が時間を意識して働くことができた。研修会や情報交換会などを引き続き行い、職員一人一人の意識をさらに高めていきたい。	
2 学校教育目標	気づき、考え、実行する子どもの育成 ～博愛の里 伸びゆくわれら 中小っ子～	
3 本年度の重点目標	一人一人が自分の力を発揮して、輝くことができる学校づくり ①学力向上 ②子どもの活躍の場の設定 ③地域連携	

4 重点取組内容・成果指標				中間評価		5 最終評価	
(1)共通評価項目							
重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価	
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果
●学力の向上	○全職員による共通理解と共通実践・他者と協働しながら主体的に学び続ける児童を育成するための授業実践	○「めざす児童像」(話す・聞く)の到達度80%以上。 ○家庭学習ががんばろう週間で各学年の目標時間を達成した児童が75%以上。	・「めざす児童像」(話す・聞く)を用いた評価基準を設定し、指導と評価の一体化を図る。また、全職員による研究授業等を通して、授業力の向上を図る。 ・学期に1回家庭学習ががんばろう週間に取り組む。取り組みについて、プリントやメールで周知する。				
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○道徳に関するアンケートを実施し、(生命尊重、親切・思いやり、規律の尊重、善悪の判断等)肯定的な回答90%以上にする。	・6月のフリー参観で全学年道徳の授業を公開する。 ・学校だよりや学級通信等で道徳の授業内容を保護者に発信する(学期に1回以上)。				
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○月初めの「いじめ・いのちを考える」アンケートの活用と学期ごとの教育相談週間を通しての実態把握ができていると回答した教員85%以上 ○生徒支援委員会を月に1回実施する。	・月初めの「いじめ・いのちを考える」アンケートの活用と学期ごとの教育相談週間を通しての実態把握。 ・毎月の生徒支援委員会での実態把握。				
	●◎児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生や友だちはあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童85%以上 ●◎「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答85%以上	・QUアンケートや児童アンケートを実施し、自己肯定感や学級所属感を高められているのかの実態把握。 ・キャリアパスポートを活用し、将来の夢や目標の意識化をする。				
	○◎「博愛の里子どもづくり」の推進	○◎博愛の里である川副町に生まれ育ったことを誇りに思う」と肯定的な回答を90%以上。	・総合の学習や佐野祭に参加し、郷土愛を高める。 ・美化活動やJRC活動に、博愛の精神をもって取り組めるよう毎学期VS週間を設ける。				
●健康・体づくり	②「望ましい生活習慣の形成」	○児童アンケート「毎日、早寝・早起きをし、朝ごはんを食べていますか。」の項目で「している、だいたいしている」75%以上 ○「家庭学習頑張ろう週間」で各個人で設定した目標就寝時刻を7日間達成できた児童70%以上	・保健・家庭科・特別活動の時間等を活用し、十分な睡眠・早起きが生活リズムをつくり、健康によいことを理解させる。 ・就寝時間や睡眠時間を意識して生活できるような保健便りを配布したり掲示物を作成したるする。(健康タイム)				
	③「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	○児童アンケート「すききらいせずにご飯を食べている」肯定的な回答85%以上	・栄養教諭と連携し全学級で食育に関した授業を1回以上行う。(学活、保健、家庭科など)				
	④「安全に関する資質・能力の育成」	○児童アンケート「あなたは安全に気をつけて生活していますか。」90%以上 ○児童の交通事故を0(ゼロ)にする。	・交通安全教室を実施し、交通ルールを守ろうとする態度を育てる。 ・全校朝会で児童による安全をテーマにした注意喚起を毎回実施する。				
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・担当校務分掌で3つの部会を作り、代表職員を中心に協力しながら効率よく業務を進める。 ・出勤時に退勤時刻を設定させ、見える化する。				
●特別支援教育の充実	○特別支援教育に関する教員の専門性と意識の向上	○外部講師を招聘するなどし、支援を要する児童への理解、指導及び支援の在り方等について学ぶ研修会を、年に3回実施する。 ○職員アンケートで「特別支援教育研修会や支援会議等において、児童への指導・支援のあり方について共通理解し、日々の実践に生かしている。」肯定的な回答80%以上	・外部講師を招聘するなどし、支援を要する児童への理解、指導及び支援の在り方等について学ぶ研修会を行う。 ・支援学級担当が、全職員に自立活動の授業を公開して特別支援教育についての理解を深める。				
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目							
重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価	
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果
○地域連携	○地域交流ボランティアやPTAとの協働活動を通して、地域に開かれた学校を目指す。	○職員アンケートで「地域の行事や人材を積極的に取り入れた教育活動を実践することができている。」肯定的な回答80%以上。 ○保護者アンケートで「学校は、JRC(日本赤十字)や地域との連携活動に取り組んでいる。」肯定的な回答75%以上。	・佐野常民と三重津海軍所跡歴史館での連携事業への積極的参加。 ・読み語りや家庭科での地域ボランティアの活用。 ・PTAとの協働による、独居老人との交流。 ・児童の地域活動への積極的参加の呼びかけ。				

●・・・県共通 ○・・・学校独自 ◎・・・志を高める教育

達成度（評価）
A：十分達成できている
B：おおむね達成できている
C：やや不十分である
D：不十分である